

【大項目 3】教育委員会が管理・執行を教育長に委任する事務

1 評価事業は、「第二次富士市教育振興基本計画 前期実施計画」（令和4年度～令和8年度）の重点事業であり、全29事業を自己点検・評価の対象としている。

2 総合評価は、取組実績や指標を踏まえ、総合的に判断した結果である。

＜総合評価の段階＞

- A : 目標をはるかに上回る
- B★ : B評価の中、明確な工夫・改善があり、実績が上がったもの
- B : 概ね目標を達成
- C : あまり達成できていない

3 指標欄には、「第二次富士市教育振興基本計画 前期実施計画」における各事業の計画最終年度の目標値と、当該年度の目標値及び実績を掲載している。なお、指標による評価は総合評価の一部である。

（例）自ら命と体を守るための安全教育的の充実

		点検・評価対象年度の目標と実績					
◆指標 「緊急時に自分の命を守るために適切な判断をとることができる」と回答した児童生徒の割合		R 4	R 5	R 6	R 7	R 8	
	目 標	小 60% 中 70%	小 100% 中 95%	小 100% 中 95%	小 100% 中 95%	↑小 100% ↑中 100%	
	実 績	小 94.0% 中 88.4%	小 94.7% 中 88.5%	小 94.6% 中 88.0%	小 94.6% 中 90.5%		

R 7 目標は、「令和7年度 富士市の教育行政」において掲げた単年度目標である。

R 8 目標は、第二次教育振興基本計画前期実施計画において設定した目標値である。

「第二次富士市教育振興基本計画 実施計画」において掲げた最終年度の目標を上方修正した目標には↑を付記している。

前期実施計画最終年度実績

4 全29事業の総合評価の内訳は、次のとおりである。

総合評価	A	B★	B	C	合計
事業数（件）	3	13	13	0	29
割合（％）	10.4	44.8	44.8	0	100.0

【方針１】 明日を拓く人材を育成する教育基盤の推進

【施策の柱１】 新たな時代に対応する取組の推進

施策名	① Society5.0に対応する教育の充実					
総合評価	R 4	R 5	R 6	R 7	R 8	第二次教育振興基本計画 P. 21
	B★	B★	B★	B★		
◆取組実績（成果と課題）						
・情報教育研究委員会を開催し、AI ドリルソフトの見直し及び選定を行ったり、学習者用生成AI ソフトに関する研究や情報交換を行ったりした。生成AI の導入については、まずは教員子ども共に、生成AI に対する理解を深め、活用するための情報モラル、情報活用能力の育成が必要となる。						
・学校訪問を通して、ICT を効果的に活用した授業の視点を示し、各校で見られた授業実践を取り上げながら、授業改善につながる指導助言を行った。						
・情報教育のアフター5講座*をリニューアルし、ICT を効果的に活用した深い学びにつなげる授業や、自由進度学習に関する実践事例を発表してもらい、教員同士がテーマについて語り合えるよう、充実を図った。						
◆次年度への展望						
・校務や授業への生成AI の活用の可能性について、先進的な自治体等の事例を参考にしながら、ソフトやシステムの導入の研究・検討を進める。既存の情報教育に関するカリキュラムの修正を開始する。						
・「自立した学習者」の研究を進めている吉原小学校、吉原第三中学校が、ICT を効果的に活用し、子ども自身が自らの学びを計画し、見直し、調整する学び方について研究成果を発表する。						
◆指標 教員の ICT 活用指導力の状況において、「できる」「ややできる」と回答した教員の割合		R 4	R 5	R 6	R 7	R 8
	目 標	85%	85%	92%	92%	100%
	実 績	83.1%	85.9%	86.6%	88.4%	

施策名	② 学びの連続性を意識した教育の推進					
総合評価	R 4	R 5	R 6	R 7	R 8	第二次教育振興基本計画 P. 22
	B	B★	B★	B★		
◆取組実績（成果と課題）						
・小中一貫教育が特別なものではなく日常化し、研修・交流を通して教職員の仲間意識と協働が深化した。 ・授業づくりや生徒指導、道徳などで視点を共有し、子どもの学びの連続性を意識した実践が広がった。 ・施設が離れていても、協働を通して連携を育みながら、小中一貫教育の良さをより実感できるようにしていくことが今後の目標となっている。 ・各中学校区で園と小学校の情報交換が進み、理解が深まってきている。さらに園小を滑らかに接続するため、保育幼稚園課と協働し、架け橋プログラム*の周知を図るためのリーフレット作成を進めた。						
◆次年度への展望						
・引き続き、各中学校区で特色ある小中一貫教育を進めるため、授業づくりの他、小中学校で一緒にできる共通の取組（軸となる取組）で協働できるように支援していく。 ・富士市の架け橋プログラムと架け橋カリキュラム*について教職員の理解が進むよう、研修会などを通してリーフレットの周知を図っていく。						
◆指標 小中を一貫した教育活動が、子どものよりよい学びと生活につながっていると感じる連携推進員*の割合		R 4	R 5	R 6	R 7	R 8
	目 標	80%	100%	100%	100%	100%
	実 績	100%	97.6%	100%	100%	
◆追加指標 小中を一貫した教育活動が、子どものよりよい学びと生活につながっていると感じる教職員の割合		R 4	R 5	R 6	R 7	R 8
	目 標	—	—	92%	92%	100%
	実 績	—	88%	84.9%	89.4%	

施策名	③ 地域とともにある学校づくり					
総合評価	R 4	R 5	R 6	R 7	R 8	第二次教育振興基本計画 P. 23
	B	B	B	B★		
◆取組実績（成果と課題） ・学校におけるコミュニティ・スクール*への理解が広まりつつあることで、学校運営協議会*の活性化や小中合同開催などの連携が強化され、学校と地域の協働が高まってきた。 ・CSD*の成長により、地域資源を生かした授業やボランティア活動が定着してきた。 ・CSD 定例会を年5回開催し、子どもや教員、地域の具体的な活動や姿をもとに情報交換の場を設定することで、各校の活動が他校にも広がってきた。 ・学校運営協議会では、熟議への意識は向上しているが、目指す子ども像の共有や、熟議の充実にはまだ課題が残る。熟議の継続はもちろん、議題や方向性を協議会委員や管理職等が共有する必要がある。						
◆次年度への展望 ・コミュニティ・スクールへの理解を深め、この制度をより有効にするために、CSD や学校職員、学校運営協議会会長、学校運営協議会委員への研修を充実させる。 ・地域の声を生かした学校づくりや地域の力を学校の教育活動に取り入れること、子どもの地域行事への参画、地域学校協働活動*の促進等について研究を進める。 ・CSD 定例会を開催し、地域と学校がよりよくつながっていくよう、地域の特色に応じた取組等の情報共有をし、協議会の円滑な運営や熟議の充実、地域と学校の連携・協働の在り方について研究を深める。 ・子どもや地域、教職員の具体的な姿についての記録を蓄積し、成果の実感を積み重ねる。						
◆指標		R 4	R 5	R 6	R 7	R 8
保護者や地域の人との協働による活動を「よく行った」「どちらかといえば、行った」と回答した学校の割合	目 標	小81.8% 中63%	小96% 中70%	—	—	—
	実 績	小92.5% 中68.7%	令和5年度に全国学力・学習状況調査質問項目から外れた。			
◆指標		R 4	R 5	R 6	R 7	R 8
「コミュニティ・スクール等の取組によって、学校と地域や保護者の相互理解が深まったか」に「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」と回答した学校の割合	目 標	—	—	小100% 中70%	小100% 中90%	小100% 中100%
	実 績	—	小100% 中56.3%	小100% 中73.4%	小100% 中100%	

【施策の柱2】 誰一人取り残さない社会を目指した教育の充実

施策名	① SDGs *達成に向けた取組の推進					
総合評価	R 4	R 5	R 6	R 7	R 8	第二次教育振興基本計画 P. 25
	B	B	B	B		
◆取組実績（成果と課題） ・学習指導要領の理念に基づき、各教科・領域等における ESD（持続可能な開発のための教育）の推進を図った。 ・学校図書館における SDGs 関連の資料を整備し活用した。 ・学校と地域の連携強化を推進した。特に、一般社団法人まちの遊民社と共催で富士市発の新たなキャリア教育プログラム「しくみ〜な」を開発・試行した。 ・株式会社エスパルスと連携し、市内4校(小学校3校、中学校1校)でキャリア教育事業を行った。 ・地元企業から寄贈いただいた「SDGs シール絵本」を市内小学1年生に渡し、活用を推進した。						
◆次年度への展望 ・一般社団法人まちの遊民社と共催し、富士市発の新たなキャリア教育プログラムを中学校5校・小学校5校で実施し、持続可能な社会の担い手を育成する学びを充実させる。 ・株式会社エスパルスとの連携を通してキャリア教育事業を推進し、児童生徒が SDGs 達成に必要な知識・技能を身に付ける機会を一層確保する。 ・カリキュラム作成や講師選定等の学校負担を軽減するとともに、総合的な学習の時間等における ESD の充実を図るため、他課、関係機関、企業等との連携を強化する。						
◆指標 「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある」に「当てはまる」 「どちらかといえば当てはまる」と答えた児童生徒の割合		R 4	R 5	R 6	R 7	R 8
	目 標	小 45% 中 46%	小 60% 中 50%	—	—	小 80% 中 70%
	実 績	小 47.2% 中 36.6%	令和5年度に全国学力・学習状況調査質問項目から外れた。			
◆指標 「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか」に「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と答えた児童生徒の割合		R 4	R 5	R 6	R 7	R 8
	目 標	—	—	小 80% 中 65%	小 86% 中 77%	小 90% 中 80%
	実 績	—	小 73.9% 中 58.2%	小 83.2% 中 74.6%	小 79.9% 中 72.5%	

施策名		② 特別支援教育*の充実					
総合評価	R 4	R 5	R 6	R 7	R 8	第二次教育振興基本計画 P. 26	
	B	B	B★	B★			
◆取組実績（成果と課題） ・特別支援学級担任や通級指導教室*担当は、研修会や学校訪問を通じて、障害や特性に応じた子どもの見取り方やそれを生かした授業づくり、支援方法について学び、特別支援教育の理解を深めたと考える。 ・自校通級*が増えたことにより、送迎なしで通級指導教室に通うことのできる児童生徒がさらに増加し、個の実態に応じた支援が充実した。 ・小1支援は、市内の全学級訪問2年目となるが、ひらがな音読検査の紹介だけでなく、検査結果の分析やフィードバックを各校に行った。読み書きにつまずきのある児童への支援方法を共有することにも力を入れた。							
◆次年度への展望 ・特別支援学級担任や通級指導教室担当の特別支援教育に関する理解を深め、それらを授業力向上につなぐ。 ・小1支援は、ひらがな音読支援に力を入れ、より多くの学校で検査や実践が行われるように取り組む。							
◆指標 特別支援サポート員等の研修満足度（5段階評価の平均値）			R 4	R 5	R 6	R 7	R 8
		目 標	3.9	3.9	4.0	4.6	↑4.7
		実 績	3.5	3.9	4.5	4.7	

施策名	③ 外国人等の児童生徒への支援						
総合評価	R 4	R 5	R 6	R 7	R 8	第二次教育振興基本計画 P. 27	
	B	B	B★	B★			
◆取組実績（成果と課題）							
・ 5言語に対応する母語支援員が各校を訪問し、学校の要望に応じて支援を実施した。外国人児童生徒支援員は、学校生活の支援だけでなく、悩みや困りごとにも寄り添いながら支援を行った。 ・ すべての国際教室*を週5日開級し、宿題支援や進学に向けた相談、面接練習など、学習面・進路面のサポートを充実させた。 ・ 来日間もない外国人児童生徒に対して初期支援を行い、学習のフォローや学校生活への適応を促すための支援を行った。 ・ 支援員や「特別の教育課程」を担当する日本語指導教員に向けた研修を実施し、指導技術の向上や資質向上を図るとともに、支援対象児童生徒に関する情報共有ができる場を設けた。							
◆次年度への展望							
・ フィリピン語支援員を1名増員し、支援体制の充実を図る。 ・ 自動翻訳機器（ポケトーク）の台数を増やし、外国人児童生徒が円滑にコミュニケーションを行えるよう支援を強化する。 ・ 支援の質を一層高めるため、支援員や「特別の教育課程」担当教員に対する研修を継続して実施する。							
◆指標 日本語指導が必要な児童生徒に対する「特別の教育課程」実施の割合			R 4	R 5	R 6	R 7	R 8
	目 標		60%	60%	70%	75%	↑80%
	実 績		55.1%	69.4%	73.4%	79.5%	

施策名	④ 学びのセーフティネットの充実					
総合評価	R 4	R 5	R 6	R 7	R 8	第二次教育振興基本計画 P. 28
	B★	B★	B	B★		
◆取組実績（成果と課題） ・ 見学・面談総数 131 件中、「ステップスクール・ふじ」を利用した児童生徒が 92 人となり、うち中学生は 60 人で、18 人が 3 年生であった。 ・ 7 月に全日制・通信制高校及び高等専修学校を招いて進路説明会を開催した。 ・ 8 月と 2 月に通信制高校等が参加する合同相談会を企画した。 ・ 合同相談会には 178 組 347 人の参加があり、前年度と比べ 30 組、75 人増えた。 ・ 利用児童生徒の保護者懇談会を 2 回開催した。 ・ 3 年生 18 人中全員が、全日制や通信制高校等、自分なりの進路を見いだした。						
◆次年度への展望 ・ 個別のニーズに応じた柔軟な支援を継続し、将来の社会的自立に向けた歩みを支える。 ・ 自発的な学習や活動を尊重し、指導員等の適正配置により、多様な学びの環境を一層充実させる。 ・ 進路説明会や合同相談会の開催により、自分らしい進路選択に向けた多様な情報提供と参加促進を図る。 ・ 継続的な面談等を通じ、児童生徒や保護者の思いを丁寧に受け止め、支援に繋げる。						
◆指標 ステップスクール・ふじを利用した中学3年生のうち、自分なりの進路が見いだせた割合		R 4	R 5	R 6	R 7	R 8
	目 標	100%	100%	100%	100%	100%
	実 績	100%	100%	100%	100%	

〔施策の柱3〕 安全・安心で充実した教育環境の提供

施策名	① 安全・安心な学校施設整備の充実						
総合評価	R 4	R 5	R 6	R 7	R 8	第二次教育振興基本計画 P. 30	
	B	B	B	B			
◆取組実績（成果と課題） ・屋内運動場リニューアル工事に合わせて吉永第二小学校及び元吉原中学校屋内運動場にバリアフリースイートを設置した。 ・令和7年度にバリアフリースイートの設置を計画していた神戸小学校及び須津中学校の屋内運動場については、国庫補助採択の遅れにより、次年度に改修することになった。 ・須津中学校の校舎内トイレを整備し、バリアフリースイートを設置した。 ・今泉小学校の屋内運動場に新たにバリアフリースイートを設置した。							
◆次年度への展望 ・富士市学校施設長寿命化計画*に基づき、屋内運動場については計画的にバリアフリースイートの設置を実施していく。また、校舎内については在籍する要配慮児童生徒に合わせて、適時、バリアフリースイートの整備について検討をしていく。 ・全ての小学校で1・2年生の教室の近くにあるトイレの洋式化を実施する。 ・市内全小中学校は災害時の避難所に指定されており、高齢者や障がい者など多くの人の利用が想定されるため、学校施設が避難所として十分に機能するよう、トイレ以外のバリアフリー化についても順次進めていきたい。							
◆指標 バリアフリースイートの設置率			R 4	R 5	R 6	R 7	R 8
		目 標	60%	65%	80%	85%	100%
		実 績	61.9%	73.2%	75%	95%	

施策名	② より良い教育環境の維持・整備						
総合評価	R 4	R 5	R 6	R 7	R 8	第二次教育振興基本計画 P. 31	
	B	B	B	B			
◆取組実績（成果と課題） ・小学校4校、中学校2校の校舎の外壁及び小学校2校、中学校1校の屋上防水について改修を実施した。 ・吉永第二小学校、元吉原中学校の屋内運動場において、屋根・外壁改修、トイレの乾式化等の改修を実施した。 ・大淵第一小学校、大淵中学校の校舎トイレにおいて、乾式化等の改修を実施した。 ・令和7年度に屋内運動場のリニューアル改修を計画していた神戸小学校及び須津中学校と、校舎屋根及び外壁の改修を計画していた富士中央小学校、校舎トイレの改修を計画していた今泉・神戸・富士南小学校、吉原第一中学校については、国庫補助採択の遅れにより、次年度改修となった。 ・岳陽中学校に武道場を新築し、供用開始した。 ・田子浦小学校の校舎改築事業における基本構想を策定した。 ・国庫補助を活用して長寿命化改修を行った学校施設は、改修後10年以内に用途廃止すると交付金の返還義務が生じるため、学校再編を見据えた中で計画通りに改修を実施すべきかが課題となっている。							
◆次年度への展望 ・富士市学校施設長寿命化計画に基づき、校舎の屋上防水・外壁改修、屋内運動場のリニューアル改修を確実に実施していく。 ・田子浦小学校について、令和7年度に策定した基本構想をもとに、義務教育学校も視野に入れ、令和12年4月の開学を目指す。 ・必要度に応じて選定した給食室への空調設備の設置や体育館の空調設備の整備に向けた検討を進める。 ・吉原第一中学校武道場については、令和9年度の工事着手を目指し、南校舎の解体を進める。							
◆指標 長寿命化計画の進捗率			R 4	R 5	R 6	R 7	R 8
		目 標	25%	47%	67%	85%	100%
		実 績	24.5%	47.2%	64.2%	80.8%	